



平成30年度

# 茨城県優良図書

高校生・勤労青少年向け

※金額は全て税抜き表示です。

## 『かがみの孤城』

辻村 深月 著

(ポプラ社) 1,800 円



中学校入学後、学校に行けなくなってしまうところ。そんな時、部屋にあった1枚の姿見の鏡の中に吸い込まれる。そこには城があり、“オオカミさま”と6人の個性豊かな仲間がいた。

こころと6人の仲間は次第に強い絆で結ばれていく。心を揺さぶれる感動作品。

## 『バッタを倒しにアフリカへ』

前野 ウルド 浩太郎 著

(光文社新書) 920 円



バッタの研究者である前野ウルド浩太郎さんは、バッタと接触しすぎてバッタアレルギーになってしまった。

それでも研究者になるために懸命にバッタと死闘を繰り返して、現地のミドルネームも授かった。

自分の夢に向かって走り続ける抱腹絶倒のノンフィクション。

## 『君が夏を走らせる』

瀬尾 まいこ 著

(新潮社) 1,500 円



金髪で耳にはピアス。まさに外見は不良少年の大田。ある日、先輩からバイトを頼まれる。それは、1か月限定のベビーシッターだった。

1歳10か月の「鈴香」のため、何でも全力で頑張る大田。疾走感溢れ、さわやかな描写が素敵な青春小説。

## 『虹色のチョーク 働く幸せを実現した町工場の奇跡』

小松 成美 著

(幻冬舎) 1,300 円



「日本でいちばん大切にしたい会社」と呼ばれる日本理化学工業は、ダストレスチョークを製造し、業界トップシェアを誇る会社である。また、社員の7割が知的障がい者という、国のモデル工場になっている企業でもある。

働く喜びとは何かを考えさせられるノンフィクション。

## 『わたしがいどんだ戦い 1939年』

キンバリー・ブルベーカー・ブラッドリー 作

大作 道子 訳

(評論社) 1,600 円



足の悪いエイダは懸命に歩く練習をし、弟と疎開することで、母親からの虐待から脱出を図る。第二次世界大戦のさなか、エイダが闘っていた相手は戦争ではなく、自分自身であった。勇気を出して自分の人生を弟と共に切り拓いていく姿が感動的である。



## 『南風吹く』

森谷 明子 著

(光文社) 1,600 円



「この分校が閉校する前に、俳句甲子園を目指したい。」日向子の誘いを受けて、何とか集まった5人が、俳句を通じて自分と向き合い、全国大会での優勝を目指して、全力で俳句に励む。

仲間と力を合わせて成長していく姿が爽やかな青春小説。

## 『マーシャの日記 ホロコーストを 生きのびた少女』

マーシャ・ロリニカイト 著／清水 陽子 訳

(新日本出版社) 2,200 円



ナチス・ドイツによる迫害を受けて、生活が一変してしまった少女マーシャ。家族とも離ればなれになり、強制収容所での生活を余儀なくされる。苦しみながらも懸命に生き続ける中、一つの星が目の前に表れて…。

壮絶な体験を臨場感あふれる表現で書かれた日記である。

## 『おじいちゃんとパン』

たな 文・絵

(PIE International) 980 円



「なんだちびすけ たべたいのかしかたねえな」おじいちゃんと甘いパンを一緒に食べるのが楽しみだった。

美味しそうなパンの挿絵も魅力的な、おじいちゃんとちびすけのパンを通したやりとり。心が温まる絵本である。

## 『凍てつく海のおこうに』

ルータ・セペティス 著／野沢 佳織 訳

(岩波書店) 2,100 円



第二次世界大戦の戦火を逃れようと、必死で生きた名もなき若者たちが鮮烈に描かれている。

他の国の民衆と同様に、ドイツの民衆も悲惨であったことを痛感させられる。

どのような世の中であっても、とにかく生きるために行動する姿が胸を打つ。



このチラシに掲載された図書は、原則として、平成 29 年 4 月 1 日以降平成 30 年 3 月 31 日までに出版された図書で、図書館司書、読書団体、出版社等から推薦のあったものの中から「茨城県青少年の健全育成等に関する条例」の規定に基づいて推奨したものです。図書を選ぶ際の参考として御活用いただければ幸いです。

【お問い合わせ先】 茨城県保健福祉部子ども政策局青少年家庭課 茨城県水戸市笠原町 978-6 TEL:029-301-2183